

## 稲城の市民活動ってどうなの？ 市民活動フェスタ 2025 を開催しました！



旧川崎街道沿いの石碑でクイズに遭遇



偶然会った地域の方に延命地蔵のいわれを説明していただく



青渭神社では狛犬の謎に挑む



後半は、稲城の市民活動をテーマにディスカッション

市民活動団体同士、団体と市民の交流を促進する「市民活動交流フェスタ」を、昨年11月8日（土）に地域振興プラザで開催しました。

今回のフェスタは「稲城の市民活動って どうなの？」をテーマに開催、前半はまち歩きのクイズラリーで参加者同士が知り合い、後半のフリーディスカッションで交流を深めました。

地域振興プラザに集まった参加者たちは、自己紹介・オリエンテーションの後、まち歩きに出発。思い思いにおしゃべりをしたりしながら、東長沼地区内の7か所に設けた「稲城よいところクイズ」に挑戦しました。

初対面同士でもクイズで話が弾んだ雰囲気のまま後半に突入し、「みんなに紹介したい市民グループの活動や『まちの居場所』」を発表しあったり、「市民活動を活発にするにはどうしたら良いか」について意見を出し合いました。

### わかるかな？ 稲城よいところクイズ

問題 東長沼の旧川崎街道沿い、「ざるや」の向かいにある石碑に刻まれている「青沼大明神」とは何のことでしょうか？



江戸時代に編さんされた「新編武蔵風土記稿」には、青渭神社について「長沼村の西に在り、猿田彦命を祀れり。青沼大明神と号す」とあります。  
(答え 青渭神社)

# 「市民と行政の協働」ってどういうこと？

## 市職員との市民協働研修を実施しました



稲城市が目指す「協働のまちづくり」を実践していくため、市の職員と市民活動団体の代表がともに「市民協働」を考えた市民協働研修が、昨年11月14日に地域振興プラザで行われ、市民活動サポートセンターいなぎと4つの市民活動団体が参加しました。

この研修は、①協働とは何かを考えるきっかけの提供、②協働に対する市民・行政の立場による視点の違いを実感する、③考えるだけでなく行動できる職員の育成、を目的として行われるもので、今回で5回目となります。

研修に参加したのは入職1年目と5年目の職員で、5つのグループに分かれた中に市民活動団体が加わり、市民活動の現状や行政職員と市民の立場からの協働のあり方などについてグループ討議を行いました。続いて、全員が輪になって全体討議を行い、グループ討議を通じて感じたことや分かったことを発表するなど、市民と職員が立場を超えた相互理解に向けて活発

### ●研修に協力・参加した市民活動団体

NPO 法人 市民活動サポートセンターいなぎ
NPO 法人 支え合う会みのり
NPO 法人 ふれあい広場ポーポーの木
いなぎ FF ネットワーク
いなぎエコ・ミューゼ

に意見交換しました。

終了後に行った研修生向けのアンケートでは、今回の研修について「大変満足：16%」「満足：42%」「普通：39%」「不満：3%」「とても不満：0%」とおおむね好評でした。

以下に、アンケートの回答から、代表的な意見を紹介します。

### ●研修についての感想

- 初めて市民団体の方と交流しました。市で活躍する方の実際の声を聴けて、すごく貴重な時間となりました。
- 市民団体の現場からの声を聴き、実際に市民として団体の活動に参加してきたいと感じました。
- 在職5年目となりますが、グループワークを行う中で自身が公務員を目指した志望動機などの初心を思い出して、改めて襟を正すいい機会になりました。
- 1年目の時とは違う団体とお話することができ、私たち行政側の悩みと団体側の悩みを共有し話し合うことがで

き、とても良い意見交換ができたと感じます。

- 市民活動をされている方と話せて大変学びのある座談会でした。こういった機会が増えて、より密に市民と関わりながらまちを作っていけると良いと思いました。
- 協働という言葉に聞きなじみがなかったが、協働とは市役所と市民の団体が互いに意見を出し合い完成させるものだと思ふことができた。
- 市民団体の活動内容や課題を聞いて、今の社会問題とリンクしているのを感じました。
- グループワークの時間が短くて、もう

少し時間があればと思いました。

- 市民団体の方を交えてお話できて貴重な機会だった。ただ1年目の時は実際に活動に参加させていただいたため、団体の活動見学等の体験があるとさらに市民活動のことを知ることができたかなと思いました。
- 「市民協働」というワードに新入職員の多数が自身の業務と無理やり紐づけようとしている様子が見られたため、本研修前に少しだけでも市民協働の趣旨を事前研修した方が理解が深まるように感じた。
- 時間が少し短くあまり深い話まではできなかったのが少し残念でした。



- ・市民協働について、いまいち理解をすることができませんでした。
- ・会話が盛り上がってきたところで、打ち切りとなってしまった。
- ・全体的に時間が短く、ディスカッションも中途半端に終わってしまった。
- ・話し合える時間が少なかった。

### ●印象に残ったこと

- ・ディスカッションをとおして信頼関係の構築が大切であることを再認識することができたこと。
- ・5年目の先輩職員がおっしゃっていた「市職員とか所属部署、公務員といった殻を破って、市民と膝を突き合わせて本音で向き合うことで、初めて見えてくるものがあるのではないか。互いの立場からのポジショントークと事務的な対応に終始するのでは、そこに私という人間がいる意味がないのでは？」という問題提起が強く印象に残りました。
- ・初めから「協働」を目指すのではなく、市民は要望を伝える、市役所側は応えられる範囲で応えるという形が結果的に「協働」につながるという言葉が印象に残っている。「協働」とは目的ではなく手段であり、大事なことは一つの目的を達成することだと感じた。
- ・市民活動のメリットは、活動者自身の社会参加であり、誰かの役に立てる喜びだと話されていました。行政の役割として、活動者を増やす工夫について共に考えたり、情報を市民に周知していくことが大切であると感じました。
- ・行政は手段として、市民団体の方は結果として、「協働」を捉えているとい

- う話が印象的だった。
- ・市民団体の方の市に対する考えや思いを聞くことができたこと。
- ・行政から見えない、市民活動の現場の声を聴けたことが印象的だった。
- ・いろいろな意見を聞く中で市民協働の意味がよく分からなくなったが、そのことによって「市民協働とは何か」を考える機会となったので、以前より市民協働に対する意識が高まったと思う。
- ・協働に対する考え方は、市民側と市役所とで違っていたことが分かった。

### ●日常業務に対して参考になった、またはなりそうだと感じたこと

- ・市民の稲城を盛り上げようとする姿勢を感じ、それに応えられるよう働きたいと感じた。
- ・業務の中で市内の消費者団体や高齢者団体と関わる機会がありますが、実際に行政に対する意見は直接的に聞いたことがなかったので、よりコミュニケーションをとり様々な声を聞くことの大切さを感じました。
- ・法律や基礎自治体というレベルでは制限もあるものの、お互いが歩み寄って、人間対人間の関係で本音で向き合っ合意形成を図ることは、事業を遂行するという観点からも非常に重要な視点と感じました。
- ・市民団体と対等な立場で話し意見を言い合うことが大切だということ
- ・もっと市民協働の機会を増やした方が行政として需要があるイベント等を考えやすいと思った。

- ・市民の方とフォーマルな場だけではなく、フランクに話せる機会を増やすことで、小さな市民の悩みや要望を知ることができるので、市民との関わりをもっと増やしていきたいと感じました。
- ・今後は、市民目線に立って業務を行っていきたく思います。
- ・信頼関係の構築、適切な情報共有、透明性などが欠かせず、時間をかけて関係を育てていく姿勢が大切だと感じた。
- ・「市役所職員として接するのではなく、一人の人間として市民に向き合う姿勢」は、どこか事務的になっていた自分の心に刺さりました。
- ・今後、行政単独の公共サービス提供はさらに困難になっていくことが想定されるため、市民活動団体との連携が大切になっていくと感じた。

### ●市民協働に関して、職場または稲城市全体への提案

- ・職員が参加できるような活動を周知していただくと参加しやすいのではないかなと思います。
- ・市民活動の現場を見たい。
- ・今どのくらいの市民団体があり、それぞれどんな活動をしているのかを、市役所全体で共有できる機会があるといいなと感じます。
- ・市民団体と行政の交流が持てる時間が増えると良いなと感じた。
- ・公園づくりや自然保全など、もっと市民団体や市民の方、企業の意見を聞き力を借りて一緒に協働で作りたいなと思います。
- ・市民活動団体を紹介する庁内用パンフレットの作成、各課への設置等があれば、市民との窓口対応時に何か困り事がある方に対して、何かしら紹介や提案ができるかもと感じた。
- ・市民の孤立を防ぐために懇談会のような企画を定期的実施するべきだと考えます。市民が地域と繋がることで情報共有ができ、その結果、自治体で市民の抱える問題を把握することができる。自治体で問題を把握できれば、何かが起こる前に対応することが可能だと思います。また、市民が地域と繋がることで、まちへの愛着にもつながり、稲城市の目標でもある定住促進にもつながるかと考えます。

(文責：種田匡延)

# 金曜サロンスペシャルが 200回を迎えます！



2005（平成17）年10月にスタートし、毎月第一金曜日の晩に開催してきた「金曜サロンスペシャル」が、来る3月6日（金）の開催で通算200回を迎えます！

記念すべき200回目の金曜サロンスペシャルは、話し手に多摩ニュータウン稲城地区の開発に関わられた都市計画プランナーの宇野健一さんをお迎えし、多摩ニュータウン稲城地区の開発の経緯やまちの魅力づくりについて、さらに、当時ニュータウン開発と並行して検討されていた幻の「稲城中心市街地整備構想」などを、お話しいただきます。

事前申し込みは不要ですので、是非ご参加ください！

日 時：2026年3月6日（金）午後6時～8時（予定）

会 場：稲城市地域振興プラザ4階

話し手：宇野健一氏（都市計画コンサルタント／東京理科大学建築学科非常勤講師）

料 金：無料（当日、直接会場へおいでください）

問合せ：市民活動サポートセンターいなぎ（TEL. 042-378-2112 mail info@i-inagi-support.org）

## 「新春のつどい」を開催しました

2026年の幕開けにあたり、新しい年の希望や抱負を語り合うサポセンの「新春のつどい」を、1月9日に地域振興プラザで開催しました。金曜サロンスペシャルに登壇いただいた話し手や関連団体の方々、サポセンにゆかりのある方など50名以上が顔を揃えて、歓談やビンゴ大会などで楽しい時を過ごしました。



### 市民活動サポートセンターいなぎ 登録団体の活動から

#### まちの魅力を語り合う講演会開催 向陽台の-artを伝え・守る会が3周年

向陽台地区に点在するパブリック-artを未来へ向けて守り伝える「向陽台の-artを伝え・守る会」が設立3周年を迎え、記念講演会「まちづくりの専門家が語る〈向陽台〉」を昨年11月29日に城山文化センターで開催しました。

講演会は、向陽台地区のマスタープラン作成や公園・ファインタワーなどの計画に携わった上野泰氏の講演に続いて、都市計画プランナーの成瀬恵宏氏と宇野健一氏が加わって、向陽台地区のニュータウン開発の思い出や、まちの魅力を語り合う対談を行いました。



#### 稲城の魅力を「笑い」で紹介 観光案内人の会が「ガイド寄席」

稲城市観光協会でツアーガイド等を務める「観光案内人の会」は、2月14日に、いなぎ発信基地ペアテラスで「ガイド寄席」を開催しました。

観光案内人が落語家や講談師などの演者となって、稲城の歴史や文化、まちの魅力を落語や唄などで紹介する催しで、年2回開催されています。

客席を埋めた満員のお客さんたちは、笑いや手拍子を交えながら、稲城の名所や旧跡、言い伝えに隠されたエピソードを楽しんでいました。



発行／NPO法人市民活動サポートセンターいなぎ

〒206-0802 稲城市東長沼 2112-1 稲城市地域振興プラザ1F

TEL 042-378-2112

E-mail: info@i-inagi-support.org

サポートセンター  
web サイト



登録団体のイベント  
情報や告知・募金な  
どをお寄せください